



murakushi

広報

平成23年度 第3号
(通巻第115号)
平成24年3月20日
村檜町自治会

平成23年4月1日現在 人口 3,125人 男1,528人 女1,597人 世帯数1,065戸

新成人おめでとめ



成人式が1月8日(日曜日)庄内公民館で行われました。

庄内中学校卒業(平成17年度)以来の再会に、パーティー・ビンゴゲームを楽しみ、旧交を温め一日を謳歌(おうか)したようです。村檜町からの未来の星は27人誕生しました。



会務報告

- 11月21日 第9回定例評議員会
- 27日 第4回組長会
- 12月4日 総合防災訓練
- 8日 村櫛幼稚園生活発表会
- 11日 庄内中学校創立50周年記念大会
- 16日 第10回定例評議員会
- 1月8日 庄内地区成人式
- 14日 秋葉神社参拝・秋葉灯笼清掃
- 20日 第11回定例評議員会
- 2月4日 自主防災隊説明会
- 17日 第12回定例評議員会
- 18日 むらくし展・自主防災隊入退隊式
- 19日 むらくし展
- 26日 新評議員候補者研修会
- 3月3日 第5回組長会
- 4日 第2方面隊訓練
- 11日 墓地清掃
- 16日 第13回定例評議員会
- 22日 広報ムラクシ第3号発行
- 23日 平成24年度第1回定例評議員会

回顧そして感謝

女性部長 竹田宜永

丁度2年前、自治会のお話があつてから自問自答を繰り返し、前任者からの激励もあつて、引き受けることにいたしました。今日まで自分に叱咤激励をしながら、なんとか、務めて参りました。

何もかもが初体験のため戸惑うばかりで、自分の立場・役割が分からず、女性部長をはじめ、副自治会長そして庄内地区においては村櫛校区長の肩書を持っていましたので、使い分けすらできませんでした。その後、自治会長のご配慮によりいっくら軽減してくださいましたので、少し楽になりました。

しかし、苦しい事ばかりではありません。敬老祝いや会館まつりなどで高齢者の喜びに満ちている笑顔を見ると、十分ではないにしろ、まだまだ自分たちの手助けで村櫛の中を明るくすることができると思うと、少しばかりの疲れも吹き飛んでしまいます。子供たちには、綿菓子・焼きそば・フランクフルト・ゲームなどの提供などとして、喜んでいらっしゃる様子は大人冥利に尽きます。

なんととっても、3月11日の出来事は、決して忘れることはできません。東北の人た

ちを元気に、我々もそれ以上に気を取り合つて、地域の活性化に努めることが大切です。こども達ばかりでなく、みんなで見守つて、明るい町を築いていくことが、これからの目標です。

もう少しで役目を果たしますが、今まで女性部をはじめ、自治会の役員、それ以上に、村櫛町の皆様の応援があつて無事に終えることができ、深く感謝申し上げます。今後においても、微力ではありますが、できる限り協力いたします。本当にありがとうございます。



平成二十三年度を振り返って

村櫛町自治会長 石塚由幸

町民の皆様と「協力し合って」を合言葉に無我夢中で進めてまいりましたが、町民の皆様には自治会運営に対しご理解、ご協力、また暖かいご支援をいただきましたこと、深く感謝申し上げます。

当初の年度総会におきまして

1. 防災対策
 2. 環境の整備
 3. 幼稚園入園者の放課後保育
 4. 自治会館の老朽化対策
 5. 町有地の有効活用
- の5つの基本方針を打ち出しました。

防災対策については、3月11日の東日本を襲った地震と津波の教訓から3回の津波避難訓練、また初期消火、放水、救護及び搬送、炊き出し等の総合地震対策訓練を実施し、回を重ねるごとに参加人数も増加し町民皆様の防災意識の向上になったと思います。

環境の整備については、ゴミ集積所の整備も順次進めてまいりました。お墓の登り坂の手すりも要望書通り市が実施してくれましたし、駐車場入り口のアスファルト、駐車場からの手すりも完成しました。また公園内の除草、樹木の剪定も進めてまいりました。

幼稚園入園者の放課後保育については、市の教育委員会との会合を重ねてまいりましたが、受入施設、園児の安全、保育士、予算確保等の問題から断念せざるをえませんでした。

しかしながら総会時点では10名に満たないと言われていた24年度の入園者数がPTAをは

じめとする幼稚園関係保護者の勧誘努力により15名になり空白のクラスがなくなったことに安堵しています。

自治会館の老朽化対策については6月20日、市に申請書を提出し、7月から改築工事に入り、屋根、廊下、雨樋、耐震用の支え、2機の空調機の設備、ふすま、欄間等全ての工事が8月初旬に完成し利用されています。

町有地の有効利用については、前に進んでいないのが現状で、なにか良い利用方はないか色々な案が出る中で模索していますが、今後は町民の皆様方のご意見、希望、要望案等、受け入れながら前に進めるよう努力してまいります。本年度は浜松地方に大きな台風が2つも襲来し農、漁業を始めカーブミラーや大木の転倒等村櫛町内も大きな被害を受けました。また町有地である臨海海の家、湖岸堤も壊滅状態の被害にありましたが、市へ働きかけ少しでも前に進むべく努力しています。

本年度は53ヶ所の要望を町民より受け要望に答えるべく行政と一体となり取り組んだつもりですし、今後も精力的に取り組んでいきます。一年間のご協力に感謝申し上げます。

絆(きずな)

毎年、その年を二文字で表す漢字が12月に発表されます。2011年を表す漢字として12月7日に清水寺の森清範貫主が特大の和紙に墨で書き上げた漢字は「絆」でした。「絆」とは家族、友人等、人と人との結びつきを意味する言葉です。近年忘れ去られていたこの「絆」がいかに大

切で大事なものであるかを再認識させられたのが昨年3月11日の東日本大震災における未曾有の大惨事でした。

○最近の風潮として個人の自由を尊重するという名のもとに、他人には干渉しない、自分さえよければ他の人がどうなろうと関係ない。そんな社会になっていきましたが東日本の大震災がもたらした悲しみから地元の人たちが力強く立ち上がるうとした時、何よりも必要だったのが「絆」でした。

○人間一人では生きていくことが出来ない、家族や地域住民一人一人が手を携え、協力してこそこの悲しみから抜け出すことが出来る唯一の道でした。被災された人たちの心理状況はそんなではなかったかと思われれます。

○少子高齢化社会の中で一人暮らしのお年寄りが増え、病気がちであったり、自分の身の回り世話や買い物もままならない状況であったりする人もおられます。そして両親が共稼ぎの家庭では一人で留守番をしている子供さん等も居る事を考えた時、今回のような地震や津波以外にも台風や火事等の災害はいつ襲ってくるかわかりませんし、凶悪な犯罪等も含め危険は至る所に潜んでいます。この村櫛町も例外ではなく最近、一人暮らしのお年寄りの世帯が増えている状況ですので地域住民全員が手を携え助け合い、街全体が力強い「絆」で結ばれた災害に強い街、犯罪がゼロの街、安全で明るく住みよい街づくりを実現する事が何よりも必要ではないでしょうか。



アソビ

町の声 あんなこと こんなこと



中学生も参加した防災訓練



いつくるかわからない災害に備えた、倒木除去実演



消火器取扱い訓練



秋葉灯籠清掃



墓地もきれいに木の伐採



皆で祝った庄内中学校 創立50周年記念大会



編集委員

山崎 藤司 鈴木 明德 安間 清弘
熊谷 益美 小松 美保 徳田 八重子



練習の成果を! 幼稚園 生活発表会